



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2024
No.624
8月号

祝 教団創立五十二周年

『救いの光教団綱領』

- 一、正神を敬い 祖先を尊び 恵みの光に浴して 感謝報恩の生活を送ります
- 一、明主様の教えを心に誓い 光をまくばり 救いの業を 普く世にひろめます
- 一、誠と愛の人となり 利他の心を救いとして 世の光となるよう努力します

御光筆 光明 (こうみょう)



落款 如頼
彌勒神政
天昭地明
(教団所蔵)



箱書き
【右】表 【左】裏
昭和二十年葉月
落款 如頼
落款印 萬象臺主

◎教団方針

信徒よ速やかに目覚めよ、
それは光を受け、邪を捨て、光を授け、
正に生きる事である

神言霊

われらの道

宗教の目的は、改過遷善にあるのだから、
それには魂の曇りを除く必要がある。
魂さえ清くなれば悪いことはできなくな
り、世のため人のために善を行う立派な人間
になるからである。

それに対し、耳からの教えによって魂を清
める手段が御説教であり、目からと言霊から
そうするのが、バイブルや経文、御筆先等で
あるのはもちろんだが、本教は耳から目から、
また言霊での清めもあるにはあるが、それら
は従であって、主とするところは浄霊である。
なんとすれば五官を介して清めるのは間接的
方法であって、見えざる魂にむかつての体的
方法であるから、効果の薄いのはもちろんで
ある。ところが本教浄霊にいたっては、直接
魂にむかつて霊光を注いで浄めるのであるか
ら、その効果たるや到底体的の比ではない。
右のごとくであるから、いつもいとうとおり
本教は宗教ではなく、超宗教といってもいい

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

のである。そうして宗教とは読んで字のごと
く、宗祖の教えであって、教えによって人心
を済度するのが建前となっているが、前記の
ごとく本教は、教えは第二第三で、浄霊によ
って人を善化するのである。実に宗教以上と
いってもあえて過言ではあるまい。

そんなわけで今は適当な名前が見当たらな
いので、仮にメシヤ教と名づけたままである。
これも今までにこのような素晴らしい救いが
なかったから名称もないので、また止むを得
ないといえよう。

強いて言えば『救いの光』とでも言うより
外に言葉はないであろう。

特報 新リーフレット発行！

このたび、教団紹介のリーフレットが新
しく発行されました。
はがきサイズで見やすいリーフレットで
す。

教団ホームページの二次元コードも印刷さ
れておりますので、スマホなどからも私た
ちの活動をみていただくことができます。
さあ！明主様の教えをより多くの人にお
伝えさせて頂きましょう。

学び「お盆の意味について」

今月も各地で様々なお盆供養の行事が行われます。

今回はお盆の意味と私たちの祖霊様に対する心の持ち方を『神言霊』より学ばせて頂きましょう。
〈お伺い〉お盆の意味についてお伺い申し上げます。

【神言霊】

『積尊の大慈悲から、盂蘭盆会というものを作り、毎年一回日を決めて、地獄にいる霊を子孫の家に還らせて下さるのである。その日は地獄の釜の蓋が開くというが、とにかく地獄の祖霊も仏壇へ招かれ、子孫に供養される。地獄の霊もそれを知っていて待っているのである。元来祖霊は、常に全部仏壇にいるわけではなく、平常は選ばれた留守番の霊がいるだけの子孫が拝む時だけ仏壇に集まるのである。その際仏壇には、ある程度救われた霊だけしか来られない。』



本部慰霊祭における祭壇の様子

い。つまり八衢以上のものが来れるので、地獄にいる霊は、お盆の時以外は来られないのである。

地獄以外の霊は、いつでも来られるから、お盆は主として、地獄の霊を慰めてやるのです。この時だけは、思いきってたくさんご馳走を食べられるのである。お盆には種々の儀式を行って霊を迎えるのであるが、「おがら」を焚くのは、ここからお入り下さいという目印である。』

【神言霊】

『その土地の習慣のままでいい。生きている時の記憶があつて、お盆と想っている。霊界では、伝統や習慣のままにしてくれる。』

祖霊様に対する心の持ち方

【神言霊】

『同じようにお祀りしてもね。祀る人の気持ち、大分影響しますよ。ただ形式だけでは、霊の方であまり感応しないのです。水を一杯上げるにしても、本当に「お上り下さい」という気持ちで上げると霊の方も飲めるし、また水も

感謝奉告

父の帰幽、葬儀、四十九日法要と本部参拝、納斎式を通して体験した奇蹟に感謝！

羽生 峰人

〈長野教会〉

本年二月に亡くなりました父の葬儀から法要を通じて賜りました奇蹟と御守護の奉告をさせていただきます。

一つ目は父が亡くなった二月一日の出来事です。

早朝、夢のなかで「峰人や」と女性の声で呼ばれ目が覚めました。当時父は入院しており、入院当時から「覚悟はしておいてください」と言われており、胸騒ぎがしたのですが、母より二日ほど前に面会した際、容体は落ち着いていると聞いておりましたので気のせいだろうと定時に出勤いたしました。しかし、病院から朝食後、急変し危篤状態になったと連絡が入り、急いで家族に状況を伝え、自分も

美味しいのです。仕方なしに上げてはならないから上げるといふのでは、霊は飲めないのですよ。先日もね。喉がかわいて仕方がない、という霊があったのですが、「あんたはちゃんと毎日水を上げて貰っているではないか」と言ったら、「いや、上げる人が本当にあがつて下さい、という気持ちではないから、飲めない」といっていました。そんなものですよ。』

上司に状況説明の上、早退して自宅に急行しました。母と妹が病院に到着し、面会して間もなく、父は息を引き取りました。私は移動中、妹からのメールで父の訃報を知りました。自宅までの移動中、さまざまなが頭をよぎりました。悲しいという思いより、通夜・葬儀の段取り、役場や金融機関への手続きなど様々な課題をどうやって進めるか、頭の中で整理を行いました。その中で朝の女性の声は「父の危篤を知らせる」何かの前兆ではなかったのかという思いと、その声の主をずっと考えていました。自宅に到着し、父とは無言の面会となりました。翌朝、目が覚め、早朝の空気を吸いに外に出て景色を眺めていると「あつ」とひらめくものがありました。声の主は亡くなった祖母の声だったという思いに至ったのです。祖母は我が家の入信第一号で、旧松川教会の福沢先生とご縁からご神体をご奉斎されたようです。あくまで私の推測ですが、祖母は家柄を守り、この一大事に霊界から祖母がいち早く長男である私に伝えるべく声をかけてきたのではな

いかに思います。そこから葬儀までの五日間は怒涛のような日々でした。早朝から夜遅くまで今迄にないほど頭とエネルギーを使いましたが、不思議なことに非常に頭が冴えいろいろアイディアが次から次へとわき、まるで誰かに操られているような気分でした。いわば祖母が神言霊にある私の「正守護神」となって私の体を使っていたのかなと差配していたのではな

いかに思います。二つ目は、教会に父の供養申し込みに行った際の出来事です。先生に、父の新霊供養の申し込みと合わせて、遺髪納斎申し込みを願いましたところ、春のみたままつりに合わせて納斎式がお願いできることでしたので、久しぶりに東京本部でのご参拝が叶うという千載一遇のチャンスと思

我が家の仏壇には先祖代々の戒名が刻印された集合位牌が二本と故人の位牌が八本ほどあることから、父の位牌が仏壇に納まらないことが分かり、葬儀会社から「繰出し位牌」にまとめたかどうかと提案を受けていましたので、その旨お伝えしたところ、「祖霊供養セミナー」のテキストの位牌に関する「神言霊」をご紹介いただき、先祖代々の霊位の位牌を作ること

にいたしました。このタイミングで先生にご相談して良かったと感じました。後日葬儀会社とお寺のご住職にその旨伝え、父の位牌と合わせ四十九日の法要に間に合わせていただき、法要当日に新しいご位牌に無事お

移りいただくことができました。最後は四十九日法要前日に起きた奇蹟の話です。それは長い間、音信不通になっていた私の従兄弟から「四十九日の法要に参列したい」というものではないかと思

入りに行った際の出来事です。先生に、父の新霊供養の申し込みと合わせて、遺髪納斎申し込みを願いましたところ、春のみたままつりに合わせて納斎式がお願いできることでしたので、久しぶりに東京本部でのご参拝が叶うという千載一遇のチャンスと思

我が家の仏壇には先祖代々の戒名が刻印された集合位牌が二本と故人の位牌が八本ほどあることから、父の位牌が仏壇に納まらないことが分かり、葬儀会社から「繰出し位牌」にまとめたかどうかと提案を受けていましたので、その旨お伝えしたところ、「祖霊供養セミナー」のテキストの位牌に関する「神言霊」をご紹介いただき、先祖代々の霊位の位牌を作ること

にいたしました。このタイミングで先生にご相談して良かったと感じました。後日葬儀会社とお寺のご住職にその旨伝え、父の位牌と合わせ四十九日の法要に間に合わせていただき、法要当日に新しいご位牌に無事お移りいただくことができました。最後は四十九日法要前日に起きた奇蹟の話です。それは長い間、音信不通になっていた私の従兄弟から「四十九日の法要に参列したい」というものではないかと思



本部での納斎式を終えた羽生峰人さん

トピックス1

令和六年天啓祭・鋸山日の出参拝、六月感謝祭執り行われる

令和六年六月十五日、例年より遅い梅雨入りを迎える中、予報から一変し、梅雨の晴れ間となり、奇しくも昭和六年六月十五日から平成に続き同じ数霊を迎えた今年、神仕組みの大御祭典である天啓祭を迎えた。

この日、前日より鋸山の麓に宿泊していた日の出参拝組も予定通りのスケジュールにて神々しい日の出を仰ぐことが許され下山。

東京本部においても祭典前から参拝希望をされた地方教会の信徒が集まり、コロナ禍前の本部大御祭典さながらの活気にみちた雰囲気の中、定刻の十一時より各布教拠点に中継を行い祭典が始まった。順調に祭典が進み、鋸山日の出参拝の報告を迎えたと同時に申し合わせたかのように鋸山日の出参拝を終えた窪田役員ほ

か信徒数名が到着、予期せぬ登場に会場にも歓声が沸いた。その後は窪田役員と戸塚教師が撮影してきた映像とともに、現場の雰囲気やその感動をやや興奮気味に報告された。祭典後も久々に再開した信徒との交流があちこちで見られ本部を名残惜しそうに後にする姿が見受けられた。

また、この日も教団所蔵の明主様御遺作が展示され、貴重な御軸、扇をはじめ御遺品の御箸の展示も行われ、間近に拝観できたことに感動の気持ちを抑えきれない方も見受けられた。祭典は多くの信徒の歓びの声と感動の思いに満ち溢れた中、その一日を終えた。

(鋸山日の出参拝の様子は四面に掲載。当日の祭典の様子はYouTubeにてご覧いただくことが出来ます。)



会長の挨拶



代表者による玉串奉奠
資格者代表 佐藤直登教師
参拝者代表 浅利正子氏



祝詞奏上



祭典の様子



鋸山日の出参拝の映像を見る参拝者



窪田役員による鋸山日の出参拝報告の様子



神歌奉唱

会長挨拶(要旨)

本日は、令和六年天啓祭・鋸山日の出参拝、また六月感謝祭おめでとうございます。

今から遡ること九十三年前の昭和六年(一九三一年)、明主様は、六月十五日、房州(千葉県)鋸山の日本寺へ参詣せよ」という神の啓示を受けられ、前日の六月十四日、三十数名の信者とともに、両国から汽車に乗ってご移動されて鋸山の中腹にある乾坤山日本寺に泊られ、明くる朝、日の出を目指して山頂に向かわれました。そして昇る朝日に向かつて祝詞を奏上したときに、霊界の夜昼転換の啓示を受けられました。

教団では、明主様が天啓を受けられた日と同じ数霊となる平成六年六月十五日に教団初の天啓祭鋸山参拝が三九五名の信徒とともに厳粛かつ盛大に執り行われました。

そして令和をむかえ、本日も、奇しくも再び同じ数霊となる令和六年六月十五日をむかえました。今回は天啓祭の祭典とともに、鋸山日の出参拝を計画し、教師、信徒あわせて十八名が夜中から登山を行い、早朝の日の出に合わせて戸塚教師先達の元、参拝が執り行われました。

また、昭和四十八年までは「地上天国祭」という名のもとに祭典を執り行っておりましたが、翌年の昭和四十九年より「天啓祭」と名称を改め、奇しくも今年で五十回目の天啓祭を迎えました。同時に「救いの光教団」の名が誕生したのもこの日になります。

明主様は、「六月十五日という日は一つの大きな節です。お光が強くなりますと、浄化もまた、激しくなり、善悪の区別がハッキリついてきますから、この信仰にあるものは、あんまり慢心したり、取り違えたりいたしますと、危ないのです。信仰に徹底して、あやまりないように進んで下さい。」と仰っておられ、

今月の神成二面の学び「ノアの洪水」の神言霊からも浄霊が火の洗霊であることをお示し頂いております。昼の世界が進むにつれて夜の世界の有様が一变してまいります。その時に際し私たちは確かな信仰と浄霊法を身に着けておく必要があるのではないかと思います。この事は光守様がお示しされた今年の教団方針に表されているのではないかと

思います。まさしく明主様の信徒(まめひと)である私たちが目覚め、神の光を正しく取り次ぐ事ができるように努力精進してまいります。

また、昭和四十八年までは「地上天国祭」という名のもとに祭典を執り行っておりましたが、翌年の昭和四十九年より「天啓祭」と名称を改め、奇しくも今年で五十回目の天啓祭を迎えました。同時に「救いの光教団」の名が誕生したのもこの日になります。

明主様は、「六月十五日という日は一つの大きな節です。お光が強くなりますと、浄化もまた、激しくなり、善悪の区別がハッキリついてきますから、この信仰にあるものは、あんまり慢心したり、取り違えたりいたしますと、危ないのです。信仰に徹底して、あやまりないように進んで下さい。」と仰っておられ、今月の神成二面の学び「ノアの洪水」の神言霊からも浄霊が火の洗霊であることをお示し頂いております。昼の世界が進むにつれて夜の世界の有様が一变してまいります。その時に際し私たちは確かな信仰と浄霊法を身に着けておく必要があるのではないかと思います。この事は光守様がお示しされた今年の教団方針に表されているのではないかと

トピックス2

天啓祭鋸山日の出参拝 感動の御来光を拝す！

明主様のみあとを慕い、昭和六年六月十五日と同じ数霊の令和六年六月十五日、教団として二度目の『天啓祭鋸山日の出参拝』が十八名の信徒と共に厳肅に執り行われました。

この度の参拝では、気がかりなことが三つありました。その一つが天気です。週間天気予報では当日は「曇り、降水確率六十%」と、正に梅雨空模様でしたが、日が近づくにつれ予報は徐々に好転し、一喜一憂しておりました。結果は当日を含め前日まで雨の心配はなく、麓からの登山道も乾燥し、滑る危険もなく安心して登ることが出来ました。

二つ目は参拝者の年齢です。三十二歳から七十七歳まで男女十八名の平均年齢は六十歳でしたが、皆さん健脚で深夜二時からの登山も何事もなく予定通りの時間に登りきることが出来ました。

最後の一つは、日の出の方角です。昭和六年、平成六年は共に日本寺境内から東天に昇る朝日に向かって祝詞を奏上いたしましたが、今回は日本寺に入ることが出来ず、山頂を含め、どの山道も東面は山肌に遮られている所ばかりでしたが、唯一、今

回の日の出ポイントが、北面の開けている所で、六月ならば真東から北へ三十度弱寄るので、御来光を拝めるはずだとの事で、ひたすら祈る思いで当日を迎えました。その結果、奇しくも見事正面に御来光を拝することが出来ました。

以上、すべての事が順調に許され、御来光の輝きを拝させて頂いたときの感動は何事にも代えられないものであり、参拝者一同、大光明、明主様の御守護の賜物と受け止め、感謝の内に下山させて頂きました。



日の出参拝に臨む皆さん



礼拝場所からの神々しい日の出



日の出時刻に合わせて御参拝



夜明け前の漆黒の登山道を各自の明かりをたよりに進む一行

岡田茂吉師 の 自然農法

水田の除草作業

(六月から七月の作業について)

田植えが終了し六月に入りますと、水田作業の中でも最も重要な「除草」作業がはじまります。田植えからすぐでは稲苗の根付きが未熟で除草時に一緒に抜けてしまうので、

り地道に続けてきた結果であると感じました。最後に、今年は育苗から田植えまでは心配事が絶えませんでした。田植え以降は稲が元気に生長し、昨年よりもこの時期の育ちが旺盛であると思えました。まだまだ予断は許されませんが、昨年よりも良い結果が得られることを期待したいです。

根付きが落ち着く約二週間後を目安とし、第一回目を六月六日〜七日に行いました。その後も約二週間に一回の間隔で六月に二回、そして七月も二回の計四回の除草を行いました。除草方法は例年通り、手で水田表層部の土を満遍なく掻きまわし、雑草を小さいうちにこそげ取ります。水田によっては土が固くなっている箇所があるので、最初の内は掻きまわすのに非常に力を要し、苦勞しましたが、続けていくうちに徐々に土が柔らかくなり、七月に入ってからはある程度楽になりました。また、今から十年以上前であれば「ヒエ」や「ヒルムシロ」などの厄介な雑草が多く生えてきましたが、現在では大分その勢いを抑える事が出来ており水田がとてきれいなになりました。今回のような除草作業を長年に渡

秋季大祭・秋のみたままつり、九月感謝祭のご案内

秋彼岸の大御祭典を迎えます。

大光明、明主様に感謝と祈りをお捧げし、祖霊様へ心を込めて御供養のお気持ちをお捧げいたします。御供養のお申し込みは各布教拠点にて受け付けております。

- ◎ 祭典日 令和六年九月二十二日 (日) 十時開式
- ◎ 参拝所 東京本部、各布教拠点 (本部より一斉中継)



水田除草の様子



田植え後間もない水田



元気に生長した稲